

(11) 2-25371 (A) (43) 26.1.1990 (19) JP

(21) Appl. No. 63-175395 (22) 14.7.1988

(71) FUJI PHOTO FILM CO LTD (72) NAOTO YANAGIHARA(2)

(51) Int. Cl⁵. B41M5/145,B41M5/30

PURPOSE: To increase color development and fresh preservation capabilities as well as the stability of a color-developing image and thereby allowing a color developing section to absorb light from a near infrared region by adding a fluorenederivative with molecules containing an oxazine ring substituted with a substitution aryl group and an electron-acceptive compound.

CONSTITUTION: A fluorene deritative with molecules containing an oxazine ring substituted with a substitution aryl group and an electron-acceptive compound are added. The fluorene derivative is used in the form of a mixture with other various compounds such as electron-donative achromatic dyes, namely, a triphenylmethanephthalide compound, a fluorane compound and a fluorene compound. In addition, preferably other two kinds of dye presenting black color should be used. Further, a phenol derivative, a salicylic acid derivative, a metal salt of aromatic carboxylic acid or a metal complex may be employed as an electron-acceptive compound. Of these, electron-acceptive compounds of the salicylic acid derivative and a metal salt are favorably acceptable. Especially a zinc salt is best suited to the mixture. The ideal amount of the electron-receptive compound is equivalent to 50-5000% by weight of the total amount of the electron-donative achromatic dye.

(54) RECORDING MATERIAL

(11) 2-25372 (A) (43) 26.1.1990 (19) JP

(21) Appl. No. 63-175397 (22) 14.7.1988

(71) FUJI PHOTO FILM CO LTD (72) KAZUNORI NIGORIKAWA(2)

(51) Int. Cl⁵. B41M5/155,B41M5/30

PURPOSE: To increase the reliability, especially the fresh preservation and humidity-and heat-resistant preservation capabilities of a color-developing image by using specific N-(ethylbenzenesulfonyl) aminophenol derivative as an electron-acceptive compound.

CONSTITUTION: In a recording material which uses color development due to the contact between electron-donative achromatic dye and an electron-acceptive compound, a compound as shown by formula (1) is used as an electron-acceptive compound. In the formula, R is a hydrogen atom, a halogen atom and an alkyl group. The preferable alkyl group as expressed as R by the formula is one with 1 to 5 carbon atoms. The ideal substitution position of the ethyl group is the p-position or o-position of the sulfonyl group. In addition, the maximum allowable percentage of the component at their respective% other substitution positions as an additive is 25% by weight. The preferable melting point is 90°C or higher. The electron-donative achromatic dyes are various compounds such as a leuco compound, a triphenylmethanephthalide compound and spiropyrane compound.

$$C_2H_5$$
 SO_2NH R

(54) ELECTROHEAT-SENSITIVE TRANSFER MEDIUM

(11) 2-25373 (A) (43) 26.1.1990 (19) JP

(21) Appl. No. 63-175531 (22) 14.7.1988

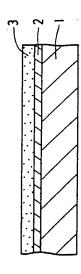
(71) HITACHI MAXELL LTD (72) HISANOBU MIAMA(2)

(51) Int. Cl⁵. B41M5/20,B41M5/26

PURPOSE: To minimize the deterioration of breaking ductility, if an electroconductivity-giving agent is added and make a resistance layer pliable by forming the resin matrix of the resistance layer with a mixture of aromatic

polycarbonate and polyurethane containing aromatic ester.

CONSTITUTION: In an electroheat-sensitive transfer medium with a resistance layer 1, a heat-conductive layer 2 and an ink layer 3, the resistance layer 5 is composed of an electroconductivity-giving agent and a resin matrix. The resin matrix consists of a mixture of aromatic polycarbonate and polyurethane containing aromatic ester. The polyurethane containing aromatic polycarbonate has superior elasticity and a high glass transition point, and if added to the aromatic polycarbonate, becomes compatible with the aromatic polycarbonate. Therefore, the mixture has a reduced hardness without deteriorating the advantages of aromatic polycarbonate such as superior heat resistance and high breaking strength. The ideal amount of added polyurethane containing aromatic ester is 5-60% by weight. If the amount is less than 5% by weight, the breaking ductility deteriorates, while if more than 60% by weight, the heat resistance becomes low.



⑩ 日本 国 特 許 庁 (JP)

① 特許出願公開

平2-25372 ⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

@Int. Cl. 5

識別配号

庁内整理番号

⑩公開 平成2年(1990)1月26日

5/155 B 41 M

503

7915-2H 6956-2H 5/12 5/18 - B 41 M

108 108

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全8頁)

❷発明の名称 配録材料

> 创特 昭63-175397

22出 願 昭63(1988)7月14日

@発明者 JII 和 即 濁

静岡県富士宮市大中里200番地 富士写真フィルム株式会

社内

700条 明 者 石 貞

夫

静岡県富士宮市大中里200番地 富士写真フィルム株式会

补内

@発 明 者 孝 行 静岡県富士宮市大中里200番地 富士写真フィルム株式会

牡内

富士写真フイルム株式 る出 願人

神奈川県南足柄市中沼210番地

会社

- / 発明の名称
- ょ 特許請求の範囲

電子供与性無色染料と電子受容性化合物の接触 化よる発色を利用した記録材料化おいて、眩覚子 受容性化合物として(Ⅰ)式で示されるN−(ェ チルペンセンスルホニル)アミノフエノール誘導 体を用いた事を特徴とする記録材料。

(式中、Rは水素原子、ハロゲン原子、アルギ ル基を示す。)

ょ 発明の詳細な説明

(発明の分野)

本祭明は記録材料に関し、発色画像の信頼性と くに生保存性、耐湿熱保存性を向上させた配録材 料に関する。

(従来技術)

電子供与性の無色染料と電子受容性化合物を使

用した記録材料は、感圧紙、感熱紙、感光感圧紙、 通電感熱紙等として既によく知られている。たと えば英国特許2,140,449号、米国特許4, 480,052号、同4.436,920号、特 公昭60-23、922号、特開昭5クーノフター 836号、同60一123,556号、同60一 ノス3,よよ7号などに詳しい。

最近とくに、記録材料の使用形態の多様化に伴 い、発色面像の信頼性の向上が要求されている。

との中で電子受容性化合物としては、従来、有 機蔵、フエノール性物質が用いられ、例えば発色 画像の耐袖性、耐可塑剤性を向上させる化合物と してNー置換ペンゼンスルホニルアミノフエノー ル顔などが提唱されている。

しかしながら、Nー置換ペンセンスルホニルブ ミノフエノール類は、一般に発色面像の機度が、 高温、高温時に低下するといつた欠点を有する。

ところが、本発明者らは、上記の点に鑑み、鋭 意研究の結果、電換ベンゼンスルホニル基の置換 **基としてエチル基を用いると高限、高速時におけ**

- 2 -

る機度の保存性が特異的に向上するととを見い出 し、本発明を完成するに至つた。

(発明の目的)

本発明の目的は、発色画像の個額性とくに生保存性、耐湿熱保存性が良好で、しかもその他の具備すべき条件を満足した配録材料を提供するととである。

(発明の標成)

本発明の目的は、電子受容性化合物として(I) 式で示される化合物を用いた記録材料を開発する ととによつて達成された。

$$C_2H_5$$
 \longrightarrow SO_2NH \longrightarrow R (1)

(式中、Rは水素原子、ハロゲン原子、アルキル基を示す。)

上式中Rで表わされるアルキル基としては炭素 数!からょのものが好ましい。

上式中、エチル基の置換位置は、スルホニル基

- 3 -

次化上述の電子受容性化合物と接触して着色物 を与える電子供与性無色染料について述べる。

電子供与性無色染料としては、既によく知られているロイコ化合物、トリフエニルメタンフタリド系化合物、フルオラン系化合物、フエノテアジン系化合物、インドリルフタリド系化合物、ロイコオーラミン系化合物、ローダミンラクタム系化合物、トリフエニルメタン系化合物、トリアゼン系化合物、スピロピラン系化合物など各種の化合物があげられる。

○とれら各種の既存の無色染料について例えばプ タリド類の具体例は米国再発行特許23,024 のpー位もしくは o 一位が好ましく、それぞれ他方の置換位置による成分を2」重量が以内の範囲で含有していてもよく、融点は90°C以上が好ましい。

一般式(1) において - で示される(

合物の好ましい例を以下に記す。

号、米国特許 3 、 4 9 1 、 1 1 1 号、 同 3 、 4 9 1 、 1 1 1 6 号、 同 3 、 4 9 1 、 1 1 6 号、 同 3 、 5 0 9 、 1 7 4 号、 同 3 、 4 9 1 、 1 1 6 号、 同 3 、 4 9 1 、 1 1 6 号、 同 3 、 6 2 7 、 7 8 0 号、 同 3 、 6 2 7 、 7 8 0 7 号、 同 3 、 6 2 7 、 7 8 0 7 号、 同 3 、 6 8 1 、 3 9 0 号、 同 3 、 9 2 0 。 5 1 0 号、 同 3 、 9 2 8 9 。 5 7 1 号、 スピロシピラン類の具体例は米国特許 3 、 9 7 1 、 8 0 8 号、 等に配載されている。

無色染料の一部を例示すれば、トリアリールメタン系化合物として、ま、まービス(pージメテルアミノフエニル)ー 6 ージメテルアミノフエニル) フタリド、ま、まーピス(pージエテルアミノフエニル) フタリド、まー(pージメテルアミノフエニル) (アザ)フタリド、まー(pージメテルアミノフエニル) フタリド、まー(pージメテルアミノフエニル) フタリド、等が、ジフエニルメタン系化合物 として、4、4′ーピスージメテルアミノベンズ ヒドリルペンジルエーテル、Nーハロフエニルー

ロイコオーラミン、N-2,#,s-トリクロロ フエニルロイコオーラミン尊が、キサンテン系化 合物としては、ローダミンーBーアニリノラクタ ム、ローダミン(pーニトロアニリノ)ラクタム、 ローダミンB(p-クロロアニリノ)ラクタム、 **ユージベンジルアミノー6ージエチルアミノフル** オラン、ユーアニリノー6ージエチルアミノフル オラン、ユーアニリノー3ーメチルー6ージエチ ルフミノフルオラン、ユーアニリノー3ーメチル - 6 - N - シクロヘキシル- N - メチルアミノフ ルオラン、ユーロークロロアニリノー6ージエチ ルプミノフルオラン、ユーmートリルアミノー st ーメチルー6ージエチルアミノフルオラン、8; 6ージブトキシフルオラン、2ーオクテルウレイ ドー6ージエチルアミノフルオラン、3ージヘキ サデシルてミノーもージエチルアミノフルオラン、 4-m-トリフロロメチルアニリノー 6 ージエチ ルアミノフルオラン、ユープチルアミノーヨーク ロロー6ージエテルTミノフルオラン、ユーβー フエノキシエトキシエチル丁ミノー3ークロロー

_ 7 -

ユーアニリノーヨーメチルーギ'、3'ージクロ ルフルオラン、ユーロートルイジノーミーメチル - 6 - N - オクチルー N - イソプロピルアミノー 41 , 51 ージメチルアミノフルオラン、ユーア ニリノーヨーエチルー6-N-エチル-N-イソ **アミルアミノフルオラン、ユーアニリノーミーメ** ナルー 6 - N-エチル-N-T-ユーピリジルブ ロピルナミノフルオラン、ユーアニリノーミーク ロロー 6 - NーエチルーNーイソアミルアミノフ ルオラン等がフルオレン系化合物としては3^. 61 ーピスジエチル丁ミノー3ージエチル丁ミノ スピロ (イソベンゾフランー / , 9 ' ーフルオレ ン)ーまーオン、まり , 6!ービスジメチルアミ ノーォージプチルアミノスピロ(イソベンゾフラ ソー1,91ーフルオレン)ー3ーオン、31, 6! ーピスジプチルアミノーゟージエチルアミノ スピロ(イソペンゾフランー!,9'ーフルオレ ン) ー31 ーオン、31 , 61 ーピスーNーエチ ルーN-イソアミルアミノスピロ(イソベンゾフ タンー1.91 ージフエノキシエチル丁ミノーま **ゟージェチルアミノフルオラン、ネーアニリノー** 3-メチルー6-ジプチルアミノー8-メチルフ ルオラン、ユーアニリノー3ーメチルー6ージオ クテルアミノー8ーメチルフルオラン、ユーアニ リノー3ークロロー6ージエチルアミノフルオラ ン、ユーアニリノー3ーメチルー6-Nーβーピ リジルエチルーN-エチルアミノフルオラン、ス ーフエニルー6ージエチルアミノフルオラン、2 ーアニリノー3-メチルー6-N-エチル**-**N-イソアミルアミノフルオラン、ユーアニリノー3 ーメチルーゟークロロー6ージエチルアミノフル オラン、ユーアニリノーヨーメチルー6ージエチ ルアミノーフーメチルフルオラン、ユーアニリノ _ 3 _ フェノキシー 6 _ ジブチルTミノフルオラ ン、 2 — p — クロロアニリノー 3 — エトキシー 6 -N-エチル-N-イソアミルアミノフルオラン、 2-0-クロロアニリノー6-pープチルアニリ ノフルオラン、ユーアニリノー3ーペンタデシル ー6ージエチルアミノフルオラン、ユーアニリノ ーョーエチルー6ージプチルアミノフルオラン、

- *t* -

ーフルオレン) - 3 - オン等が、チアジン系化合物としては、ベンゾイルロイコメチレンブルー等が、スピロ系化合物としては、3 - メチルースピロージナフトピラン、3 - エチルースピロージナフトピラン、3 - メ - ジクロロースピロージナフトピラン、3 - ベンジルスピロージナフトピラン、3 - ベンジルスピロージナフトピラン、3 - メチルーナフトー(3 - メトキシーペンソ)スピロピラン、3 - プロピルースピロージペンソピラン等があり、二種以上併用することが望ましい。

無色染料と接触して着色を与える電子受容性化合物としては、前述の化合物の他に、通常の公知の化合物がとえばフェノール誘導体、サリチル酸 誘導体、芳香族カルボン酸の金属塩、酸性白土、ベントナイト、ノボランク樹脂、金属処理ノボランク樹脂、ダーターシャリーブチルフェノール、
ドロキシフェニル)プロパン、ダ・ダ′ーイソプロピリデンビス(ユーメチルフエノール)、ノ・

/ーピスー(3ークロローチーヒドロキシフエニ ル)シクロヘキサン、1,1ービス(3ークロロ ーチーヒドロキシフエニル)ーューエチルブタン、 ¥ , ¥¹ ーセカンダリーイソオクチリデンジフエ ノール、4ー tert ーオクチルフエノール、4 , ¥1-aecープチリデンジフエノール、ギークロ ロフエニルフエノール、4 , 4′ーイソペンチリ デンジブエノール、4,41 ーメチルシクロヘキ シリデンジフエノール、4 , 4 ! ージヒドロキシ ジフエニルスルホン、 / , 4ービスー4′ーヒド ロキシクミルペンゼン、 / , 3ーピスーチ′ーヒ ドロキシクミルベンゼン、 4 。 4 ′ ーチオピス (6-tertープチルー3ーメチルフエノール)、 4.41 ージヒドロキショ、31 ージアリルジフ エニルヌルフオン、ヒドロキノンモノベンジルエ ーテル、4ーヒドロキシベンゾフエノン、 4 , 4 ージヒドロキシベンゾフエノン、ポリビニルベン ジルオキシカルボニルフエノール、 a,#,#′ ートリヒドロキシベンゾフエノン、 4 , 4 , 4 , 41 ーテトラヒドロキシベンソフエノン、4ーヒ

--//-

エノキシエチルオルセリネート、よ,4ージヒド ロキシ安息省酸ーβー31ーセーブチルー41ー ヒドロキシフェノキシエチルエステル、ノーモー ブチルーチー p ーヒドロキシフエニルスルホニル オキシベンゼン、4-N-ベンジルスルフアモイ ルフエノール、2,4ージヒドロキシ安息香酸ー pーメチルペンジルエステル、 a , 4 -- ジヒドロ キシ安息香酸ーβーフエノキシエチルエステル、 2,4ージヒドロキシー6ーメチル安息香酸ベン ジルエステル、ピスーチーヒドロキシフエニル酢 酸アリル、ジトリルチオウレア、4,41 ージア セチルジフエニルチオウレア、3一フエニルサリ チル酸、メーローはーメチルペンジルーはーメチ ルペンジルサリチル酸、エーpーメトキシフエノ キシエチルオキシサリチル酸、オーフエノキシエ トキシサリチル酸、sーpーペンジルーαーメチ ルベンジルサリチル酸、3ーキシリルー5ー(α, αージメチルペンジル) サリチル酸、3.5 ージ — (αーメチルペンジル)サリチル酸、ユーヒド ロキシーノーαーエチルペンジルーミーナフトエ

ドロキシフタル酸ジメチル、ギーヒドロキシ安息 看歌メテル、立、4、41ートリヒドロキシジフ エニルスルホン、ノ,エーピスーpーヒドロキシ ペンゾイルオキシペンタン、 / , 6 — ビス p --- ヒ ドロキシフエノキシヘキサン、チーヒドロキシ安 息香酸トリル、4ーヒドロキシ安息香酸αーフエ ニルペンジルエステル、4ーヒドロキシ安息香酸 フエニルプロピル、オークロローチーヒドロキシ 安息香酸フエネチル、4ーヒドロキシ安息香酸ー pークロロペンジル、4ーヒドロキシ安息香酸ー pーメトキシペンジル、4ーヒドロキシ安息套膜 ペンジルエステル、4-ヒドロキシ安息香酸-加 ーフロロペンジルエステル、チーヒドロキシ安息 香酸βーフエネチルエステル、4-ヒドロキシー 2', 4'-ジメチルジフエニルスルホン、β-フエネチルオリセリネート、エチルオルセリネー ト、シンナミルオルセリオート、オルセリン酸ー 0 - クロロフエノキシエチルエステル、0 - エチ ルフエノキシエチルオルセリネート、フエニルフ エノキシエチルセルセリネート、m-フエニルフ

-/2-

酸などの芳香族カルポン酸、 3 , 5 - ジーシクロ ペンタジエニルサリチル酸などの酸又は亜鉛塩、 pーヒドロキシ安息香酸ターp1 ーメトキシフエ ノキシブチルエステル、pーヒドロキシ安息香酸 8ーフエノキシブチルエステル、2,4,6ート リーヒドロキシ安息香酸ダーワーエトキシフエノ キシエチルエステル、pーヒドロキシ安息奮酸 A ーフエノキシエトキシエチルエステル、p~ヒド ロキシ安息香酸ーBーpープトキシフエノキシイ ソプロピルエステル、2,4一ジヒドロキシ安息 香酸ーβ-p-メトキシフエノキシエトキシエチ ルエステル、オルセリン酸フエノキシブチルエー テル、β-レゾルシン酸-p-メトキシフエノキ シエチルエーテル、オルセリン酸βーワーメトや シフエノキシエトキシエチルエーテル、オルセリ ン酸β-0-メトキシフェノキシェチルエーテル、 オルセリン酸トリルオキシエテルエステル、オル セリン酸ー8-p-メトキシフエノキシプロピル エステル、βーレゾルシン酸フエノキシエチルエ ーテル、βーレゾルシン酸 β — p — メトキシフエ

-/4-

ノキシプチルエステル、 2 - カルポキシー 5 - β ーフ、エノキシエトキシナフトール、パラーフェニ ルフエノールーホルマリン樹脂、パラーブチルフ エノールアセチレン樹脂などのフエノール類の如 き有機顕色剤さらにはこれら有機顕色剤と例えば 亜鉛、マグネシウム、アルミニウム、カルシウム、 チタン、マンガン、スズ、ニツケルをどの多価金 異塩、特に亜鉛塩、無機酸、酸性白土、活性白土、 アタパルガイド、ペントナイト、コロイダルシリ カ、珪酸アルミニウム、珪酸マグネシウム、珪酸 亜鉛、珪酸スズ、ロダン亜鉛、ロダン亜鉛/ベン ジルアンチピリン健体、塩化亜鉛、ステアリン酸 鉄、ナフテン酸コペルト、ニツケルパーオキサイ ド、硝安などの無機顕色剤、シュウ酸、マレイン 酸、擂石酸、クエン酸、コハク酸、ステアリン酸、 ペンゾイルプロピオン酸などのカルポン酸、安息 **香醇、パラターシャリプチル安良香酸、フタル酸、** 役食子酸、などの一種以上を本発明の電子受容性 化合物と併用してもよい。

とれらの無機染料及び電子受容性化合物を記録

-/5-

一般には、電子供与性無色染料を単独又は混合して、溶媒(アルキル化ナフタレン、アルキル化ジフェニル、アルキル化ジフェニルメタン、アルキル化ターフェニル、塩素化パラフインなどの合成油:木綿油、ヒマシ油などの植物油:動物油:鉱物油或いはとれらの混合油など)に溶解し、これをマイクロカブセル中に含有させた後、紙、上質紙、ブラステックシート、樹脂コーテッド紙などの透明又は不透明の平滑な支持体に塗布するととにより発色剤シートをうる。

また電子受容性化合物を単放又は混合してあるいは他の電子受容性化合物と共に、ステレンプタ ジエンラテツクス、ポリピニールアルコールの如 きパインダー中に分散させ、後述する銀科ととも に紙、プラステックシート、樹脂コーテッド紙な どの支持体に塗布することにより顕色剤シートを 組み。

電子供与性無色染料かよび電子受容性化合物の 使用量は所留の歯布厚、感圧複写紙の形態、カプ セルの製法、その他の条件によるのでその条件に 材料に適用する場合には像分散 ないし数小摘に して用いられる。

感圧紙に用いる場合には、米国特許第2,50 ま,470号、同2,505,471号、同2, 505,489号、同2,548,366号、同 2,712,507号、同2,730,456号、同 間第2,730,457号、同3103404号、 同第3,418,250号、同4010038及 どの先行特許などに記載されているように種々の 形態をとりうる。最も一般的には電子供与性無色 染料および電子受容性化合物を別々に含有する少 なくとも一対のシートから成るものである。

カプセルの製造方法については、米国特許 3 , 8 0 0 , 4 5 7 号、同 3 , 8 0 0 , 4 5 8 号に記載された親水性コロイドブルのコアセルペーションを利用した方法、英国特許 8 6 7 , 7 9 7 号、同 9 5 0 , 4 4 3 号、同 9 8 9 , 2 6 4 号、同 1 , 0 9 1 , 0 7 6 号などに記載された界面重合法あるいは米国特許 3 1 0 3 4 0 4 に記載された手法、などがある。

-16-

応じて適宜器ペぱよい。当業者がとの使用量を決 定するととは容易である。

感熱紙に用いる場合には、電子供与性無色染料 および電子受容性化合物は分散体中で!の声以下、 好ましくはメル以下の粒径にまで粉砕分散して用 いる。分散族としては、一般にの・よまないし! の多程度の機能の水酔性高分子水酔液が用いられ、 分散はボールミル、サンドミル、模型サンドミル アトライタ、コロイドミル等を用いて行われる。

使用される電子供与性無色染料と電子受容性化合物の比は、重量比で1:10から1:0.1の
間が好ましく、さらには1:3から2:3の間が
特に好ましい。その際更に芳香族エーテル化合物
たとえば特別昭s8-s7989、同s8-87
094に開示されている芳香族のアルキル又は慢 黄ブルキルエーテル及び又は長銭アルキル甚を有
するアミドを併用してもよい。その様なエーテル
化合物の例としてはフェネテルピフェニル、ベン
ジルオキシナフタレン、ベンジルピフェニル、ジー
コートリルオキシエタン、β-フェノキシエト キシアニソール、ノーフエノキシーユー Pーエチ ルフエノキシエタン、ビスーβー(D-メトキシ フェノキシ) エトキシメタン、1~2′ーメトキ シフエノキシーユーザ" ーエチルオキシフエノキ シエタン、1、ユージフエノキシエタン、1、4 ージフエノキシブタン、ピスーβー(pーエトキ シフエノキシ) エチルエーテル、1ーフエノキシ - 2 - p - クロロフエノキシエタン、1 - 2 ' -メチルフエノキシーユー4" ーエチルオキシフェ ノギシエタン、1ー41 ーメチルフエノキシー2 -- 4º -フルオロフエノキシエタン、ノーフエノ キシーコーローナトキシフエニルチオエーテル、 / . **a**ーピスー p ー メトキシフエニルチオエーテ ル、ノートリルオキシー2-pーメトキシフエニ ルチオエーテルなどのエーテルあるいはステアリ ン酸すミド、メチレンピスステアロアミド、ステ アリン酸アニシド、ペヘン酸アミド、ステアリン **激アニリド、ステアリルウレアなどの化合物を併** 用するととが好ましい。とれらは無色染料と同時 又は電子受容性化合物と同時に鬱分散して用いら

-19-

カ、炭酸マグネシウム、酸化チタン、アルミナ、 炭酸パリウム、硫酸パリウム、マイカ、マイクロ パルーン、尿素ーホルマリンフイラー、ポリエチ レンパーテイクル、セルロースフイラー等粒径0. / ないし/ s p のものから過ばれる。

ワツクス類としては、ベンジルピフエニル、パ ラフインワツクス、カルポキン変性ワツクス、ク リスタリンワツクス、ポリエチレンワツクスの他、 ベンジルオキン安息者酸ベンジル、ステアリン酸 オクテルなどの高級脂肪酸エステル等があげられ る。

金属石ケンとしては、高級脂肪酸多価金属塩、 即ち、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸アルミニ ウム、ステアリン酸カルシウム、オレイン酸亜鉛 等があげられる。

ヒンダートフエノールとしては、少なくともょ またはも位のうち!個以上が分散アルキル基で置 換されたフエノール誘導体が好ましい。

たとえば、 / , / ーピス (ユーメチルー4 ーヒ ドロキシーまー t ープテルフエニル) ブタン、/ , れる。特に無色染料と同時に分散することがカブリ防止の点から好ましい。これらの使用量は、電子受容性化合物に対し、300岁以下の重量比で 添加され、特に10岁以上130岁以下が好まし

とのようにして得られた塗液には、さらに、糖 々の要求を満たすために私加剤が加えられる。

添加剤の例としては記録時の記録へッドの汚れを防止するために、バインダー中に無機額料、ポリウレアフィラー等の吸油性物質を分散させてかくことが行われ、さらにヘッドに対する離型性を高めるために脂肪酸、金属石ケンなどが添加される。従つて一般には、発色に直接寄与する無色染料、電子受容性化合物の他に、銀料、ワックス、帯電防止剤、紫外線吸収剤、消泡剤、導電剤、労光染料、界面活性剤などの添加剤が支持体上に動布され、配録材料が構成されることになる。

具体的には、類料としてのカオリン、焼成カオリン、タルク、酸化亜鉛、ケイソウ土、炭酸カルシウム、水酸化アルミニウム、焼成石コウ、シリ

- 20-

/ , 3 — トリス (3 — メチルーキーヒドロキシー s — t — ブチルフエニル) ブタン、ピス (2 — ヒ ドロキシー 3 — t — ブチルー s — メチルフエニル) メタン、ピス (2 — メチルー 4 — ヒドロキシー s — t — ブチルフエニル) スルフイド等がある。

紫外線吸収剤としては、桂皮酸酵導体、ペンゾフェノン酵導体、ペンゾトリアゾリルフェノール 誘導体など、たとえばαーシアノーβーフェニル 桂皮酸プチル、ローペンゾトリアゾリルフェノール、ローペンゾトリアゾリルーpークロロフェノール、ローペンゾトリアゾリルーロフェノールではアンブトリアゾリルーロフェノールなどがある。この中で特にペンゾトリアゾールフェノール酵導体が好ましい。

これらの素材については前途の特許にも詳しい。 これらは、パインダー中に分散して堕布される。 パインダーとしては水溶性のものが一般的であり、 ポリピニルアルコール、とドロキシエテルセルロ ース、ヒドロキシプロピルセルロース、エピクロ ルヒドリン変性ポリアミド、エチレン一無水マレ イン酸共重合体、ステレン一無水マレイン酸共重 合体、イソプチレン一無水マレイン酸共重合体、 ポリアクリル酸アミド、メロール変性ポリアクリルアミド、デンプン誘導体、 カゼイン、ゼラチン勢があげられる。またとれら のパインダーに耐水性を付与する目的で耐水化剤 (ゲル化剤、架構剤)を加えたり、疎水性ポリマーのエマルジョン、具体的には、スチレンーブタ ジェンゴムラテックス、アクリル樹脂エマルジョン等を加えるとともできる。

更に、塗布層表面に、耐楽品性を試与する目的 で、ポリピニルアルコール、ヒドロキシエチルデ ンプンあるいはエポキシ変性ポリアクリルアミド の如き水溶性高分子化合物とゲル化剤(硬膜剤) とからなる ο · 2 ~ 2 μ 程度の層を設けることも できる。

動物は最も一般的には原紙、上質紙又は合成紙 好ましくは中性紙上に塗布される。

一般に強布量は、固形分として2~10g/m² 程度用いられる。

- 2 3 -

どの光重合開始剤と多官能モノマーたとえばポリアリル化物、ポリ (メタ) アクリレート、ポリ (メタ) アクリレート、ポリ (メタ) アクリルアミドなどの架橋剤が無色染料 および場合により溶剤と共にポリエーテルウレタン、ポリウレアなどの合成樹脂壁カプセル中に對入される。 像露光されたのち未露光部の無色染料を利用し凝色剤と接触させて着色させるものであり、本発明者らにより開発されている。

(発明の実施例)

以下に実施例を示すが、本発明はこの実施例の みに限定されるものではない。

寒旅例 /

ューアニリノーョーメテルー6一NーエチルーNーイソアミルアミノフルオラン28、ューアニリノーョークロロー6一ジエテルアミノフルオラン28のそれぞれを3.ssポリピニルアルコール(ケン価蔵998、重合胺1000)水溶液2sgとともにサンドミルを用いて平均粒径2々に分散した。

一方、合成例で示したN-(p-エテルベンゼ

通電感熱紙は例えば特開昭49-1/344号、同30-48930号などに記載の方法によつて 製造される。一般に、導電物質、フルオラン誘導 体を主体とする塩基性染料かよび電子受容性化合物をパインダーと共に分散した強液を低などの支持体に強布するか、支持体に導電物質を整布して 導電層を形成し、その上に無色染料、電子受容性 物質かよびパインダーを分散した強液を進布する ととによつて本発明の通電感熱紙は製造される。 なお、先に述べた熱可酸性物質を併用して、感度 を向上させることもできる。

感光感圧転は例えば特開昭より一1つ9836 などに記載の方法によって製造される。一般に、 妖臭化銀、臭化銀、ベヘン酸銀、ミヒラーズケト ン、ベンソイン誘導体、ベンソフエノン誘導体な

-24-

ンスルホニル)ー 0 ー T ミノフエノール 1 0 g 、
1 , 2 ー ジフエノキシエタン 8 g を 3 号 ポリピニ
ルアルコール水溶液 5 0 g とともにポールミルで
一昼夜分散する。更にβー p ー メトキシフエノキ
シエチルオキシサリチル酸 8 g 、酸化亜鉛 1 0 g
を 3 号 ポリピニルアルコール水溶液 5 0 g と とも
にポールミルで一昼夜分散する。更に、 1 , 1 ,
3 ー トリスー 2 1 ー メチルー 4 1 ー ヒドロキシー
ま1 ー t ー プチルフエニルプタン 0 . 2 g を 3 ラ
ポリピニルアルコール水溶液 1 5 g と ともに一昼
夜分散する。

これをよく混合したのちジョージアカオリン! よ 8、 微粒子シリカ 6 g を添加してよく分散させ、 さらにパラフインワンクスエマルジョン 5 0 5 分 歓被(中京油脂セロゾール 4 4 2 8) 4 g を加え て 盤液とした。

造液は45g/m2の坪量を有する数細模酸カルシュウムが2g/m2になるようKSBRをパインダーとして強設された中性紙上に固形分量布量として5.6g/m2となるように動布した。

· - 2 6 -

60°Cで1分間乾燥の後、線圧30kgW/cm でスーパーキャレンダーをかけ 旅布紙を得た。 比 例1

実施例にかいてN-(p-エチルベンセンスルホニル)-0-アミノフエノールをN-(p-トルエンスルホニル)-0-アミノフエノールに代えた他は、阿様にして比較用の造布紙を得た。

以上の論布紙について発色機度、生保存性、耐 連無保存性について試験を行った。その結果を設 / に示した。なお試験方法は以下によった。

(1) 発色養度

量布紙を市販の感熱ファクシミリ装置で印写し、マクペス反射機度計で、その発色機度(Do)を制定した。

(2) 生保存性

歯布紙を 60°C 30 多 R H 下に 2 4 時間放 世した後、(1)と同様に印字し、その発色機度 (D₁)を制定した。

(8) 耐熱保存性

(1)のテストで印字したサンプルを60°C 3

b5nt.

以上の事より、本発明の記録材料は発色画像の 信頼性が高い記録材料であることがわかつた。

停許出願人 富士写真フイルム株式会社

の 系 R H 下 に 2 4 時間 放電 した後の発色画像の 機度 (D2) を側定した。

(4) 對程保存性

(1)のテストで印字したサンプルを40°C9 05RH下に44時間放置した後の発色画像の 機底(D₈)を側定した。

表 /

	発色機度	生保存性	耐熱保存性	耐磁保存性
	(D ₀)	(D ₁)	(D ₂)	(D ₃)
実施例/	1.30	0.99	1.11	1.12
比較例/	1.32	0.73	0./2	0.26

実施例2、3

実施例 / において、 / , ュージフェノキシエタンをューベンジルオキシナフタレン [実施例 4]、ビスーβー (pーメトキシフェノキシ) エテルエーテル [実施例 3] に代えた他は同様にして得た整布紙について表 / に示す様な試験を行なつたととろ、いずれの場合ともに表 / と同様な傾向が認

-28-